

メールレター(42)

夏の到来

寒かったり、真夏日になったり、アップダウンの激しい気候のせいで、今年はどうやら、冬物と夏物の入れ替えをするチャンスはなさそうです。季節の変わり目を肌で感じることもなく、慌ただしく夏をむかえました。

窓辺の雀は、雪が降っても、春になっても、自主隔離になっても、変わることなく、毎朝やってきます。マツコのようにコロコロになった雀は、いつからか、子ずれでやってくるようになりました。窓辺に来るとひと鳴きしてパンをねだり、無くなるとまたひと鳴きし、朝のうちに5-6度繰り返して鳴くと、姿が消えます。場慣れした賢さをマツコ雀も身につけているようです。

コロナ感染の自主隔離は、なし崩しで解除されつつあり、少しずつ外にでるようになりましたが、モントリオールのレストランの営業再開まだ10日ほど先のことです。三ヶ月以上閉まっていた、行きつけのレストランから、格安のグルメランチメニューが配信されてきました。久々なので料理に燃えているのか、かなり美味しそうです。

街行く人影も、まだ、まばらです。どの家庭も、家庭料理がすっかり身につき、外食はしたがない人が増えたようです。マダム田中も、背に腹は変えられず、始めたパン作りも、やっとこの頃、2-3個まともなパンができるようになりました。焼きたては香ばしく、思わず手が出てしまいます。あー、マツコになりそう。

義理の長男も次男も、子育てをしながら、何台もコンピューターを使いこなしながらのテレワークが身につき、このまま、9月の新学期までテレワークを続けるようです。この器用な、コンテンプラリーな仕事ぶりにはとてもついて行けそうもありません。

植物図鑑のような、園芸知識たっぷりの友人から、野菜の苗が届きました。二ヶ月かけて発芽させた、自分の菜園用の苗の一部を取っておいてくれ、届けてくれたのです。(自主隔離ですから、ハグはできず、家の前にどさっとおいて帰って行きました。)このところ、寒くてテラスには出られず、鉢が準備できていませんでしたが、手をかけて育ててくれた苗です、必死で植え、やっと、20種類ほどの野菜が育ち始めました。陽の光の味がする野菜が、そのうち実るかもしれせん。

ドリトル先生はやっと船を棧橋に着け、手入れを始めました。(冬は、マリーナは凍りつくため、ケベックでは、船は全て陸にあげ、カバーで覆い、越冬をさせます。春先に水上に戻し、持ち主がそれぞれの棧橋につけます。)

「それにしても、なんで、マリーナの持ち船に行くのにソーシャルディスタンスなんだ？水の上だ。周りには誰もいない。」

ドリトル先生は、怒りくるっております。去年と違い、マリーナへの出入りは厳しく管理され、電話で許可を得ない限りは入れません。車で自分の桟橋まで行き、人とすれ違うこともなく、船と船の間は桟橋を挟んで5-6メートルは離れているのに、何故、このヒステリックな管理が必要なのかと、船でも迫られる自主隔離に、ドリトル先生は辟易しております。ストレスが更に溜まり、爆買いに走るのではないかと、疑心暗鬼でした。案の定、ある日どさっと届いた箱には、ドローンと何故だか、あん摩器がはっていました。ドローンは遊びで、あん摩器は老体のお手入れのようです。

娘から、自主隔離の暇つぶしにとアガサクリスティの「ミスマーブル事件簿」の本が送られてきました。

「綺麗な英語だから読んでみて。暇つぶしになると思うよ。」

アガサクリスティの本は、隈なく読んでいますが、日本語ででした。なるほど、読みやすいキングズイングリッシュで書かれています。が、わからない言葉も多く、久々に辞書を引き引き、読みました。360ページの本を読むのに、なんと、1週間もかかってしまいました。もしかしたら、これは事件の鍵になる言葉かもしれない、状況を知るにはどの言葉も大事。。。サスペンスなんだから見逃せない。。。というわけで、本のページをめくるより、辞書のページをめくる方が多かったのですが、辞書を引ながら色々の発見をしたりしていました。イギリスの風景と歴史が、原語の言葉の中に表れ、一つ一つの表現に興味深々でした。

ミスマーブルを、好奇心と観察力に優れた"Spinster"と言っているのですが、こんな独身女性を意味する表現一つでも(昔は独身女性に出来る仕事は紡績工場の糸紡ぎだけだったとか。イギリスでは今でもこの言葉は、独身女性の法律用語にもなっているようです)原語だとお国柄が伝わってきます。田舎町のおばさんのすることは、噂話とガーデニングなのだともさり気なく表していました。ガーデニングで賞をとると、ソーシャルステータスがアップするようです。地元の刑事が、

「ミスマーブル、刑事でもない貴女が、どうしてこうして事件解決の鍵をみつけるのですか」
ミスマーブルは

「人間は変わらないものよ、観察していれば全てが見えてくる。」

これも、古き良き時代の人々の話かもしれません。ヴァーチャルな映像で日々を暮らす今は、人間関係の摩擦の形も変わり、ズームや動画での人付き合いでは、読めない表情もありそうです。マダム田中は、アナログで、ひたすらドリトル先生の観察に励んでおります。